

## <今朝の聖書から>

【仮定の話】私たちが、時にはこんな言い方をすることがありますが“こんな時にはどうなる？”と、作り話をすることがあります。あらさがしをするための仮定の話です。“サドカイ派の人々(20:27)”も、ここであり得ない様な議論の為の議論を持ち出したのです。

【復活の否定】教会は、必ず信者にもやってくる“肉体の死”によって建てあげられているわけではありません。そうではなくて“確かな復活の希望”によって支えられている人々の群れなのです。旧約聖書の初めのころにある“律法の書”を基本にしていたサドカイ派の人々は、モーゼの律法順守をその通りに行うことを、教えの基礎にしていました。

【主イエスの教え】ところが彼らがよりどころにしていたこの律法は、主イエスの教えであったことが、この挑発的な議論の中で明らかにされます。28節に用いられているモーゼの律法は、“兄弟が共に暮らして、そのうちの一人が子供を残さずに死んだならば、死んだ者の妻は家族以外の他の者に嫁いではならない。亡夫の兄弟が彼女のところに入り、めとって妻として、兄弟の義務を果たし(申命記25:5)”等とあることでした。29節にあるのは屁理屈の様なものです。主はこれに対して、復活の姿をもって反論されます。

【私たちの悩み】この世には、この世に生きる者として守らなければならないことが沢山あります。それらは秩序でもあり恵みでもありますが、ひとたび試みに出会った時、大きな悲しみにもなります。家族や自分自身の抱える問題が、“とり返しようにない、運命のような嘆き”になったり“彼さえ居なかつたら苦労はなかった”と思うこともあります。主は、諦めざるを得ないような悩みにも、救いの主として立ち向かわれ、この世の悩みはこの世の悩みで十分である。“信者には天の御国がある”と仰っています。

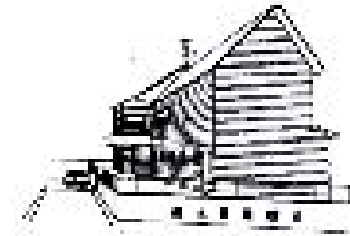
【天国の秩序】天の秩序は恵みの秩序です。かつての悩みは忘れてはいませんが、如何に恵まれた世界であるかを、心行くまで満喫できる世界です。36節で“天使に等しい者になる”と仰います。

【確かな天使】アブラハムは、み使いに導かれ夜空の星を見て主を信じました。“あなたの子孫はこのようになる(創世記15:15)”とあります。私たちにほもっとも確かな出来事“十字架の贖罪”という記憶があります。教会はその上に、主によって建てあげられているのです。

【主を信じる】私たちがみ使いのように、その日にはなると聖書は教えています。微笑ましい出来事と会話が、神とサラの間で交わされます。“笑ったかどうか”というところに記録されています。しかし結果をこの上もなく確かにサラは信じました。私たちは時に反対のことをします。神の前では、この上もなく神妙であろうと努めるのに、“いったいどれほどの力が神にはあるのだ?”とってしまうのです。モーゼの神は、アブラハムの神です、“だったではなく”です。

# 週報

2010年 11月 14日



伝えよう 救い主を  
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト  
清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)

振替口座 00890-6-214042